

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 4 月 20 日 (2006.4.20)

【公開番号】特開 2000-235676 (P2000-235676A)

【公開日】平成 12 年 8 月 29 日 (2000.8.29)

【出願番号】特願 平 11-37074

【国際特許分類】

G 0 8 B 13/00 (2006.01)

G 0 8 B 17/00 (2006.01)

【F I】

G 0 8 B 13/00 Z

G 0 8 B 17/00 G

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 14 日 (2006.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

【発明の実施の形態】

図 2 は本発明の警報装置を示したものであり、天井に固定したベース部 1 から本体 2 を取り外す際の脱落防止機構が働いた状態を示した図である。本体 2 が、ベース部 1 の下面のフック 5 に、設けた帯状の面ファスナー 3 と本体側の面ファスナー 4 とが係合し、本体 2 がこのファスナーによってつり下げられた形にて保持されている。この状態の中央断面を示したのが図 3 である。ベース部 1 に設けた凹部 7 に本体 2 の凸部 8 が結合し、その状態で本体 2 がベース 1 と合体し、本体 2 に設けた凹部 9 がベース部 1 に設けた結合機構としてのロック機構 6 により固定されるようになっている。本体 2 がベース部 1 に固定されているときには、帯状の面ファスナー 3 は本体側の面ファスナー 4 と係合した状態のまま、本体 2 とベース部 1 との間のわずかな空間の中に折りたたまれた形にて納まるようになっている。

ロック機構 6 を操作すると、本体 2 の凹部 9 はロック金具からはずれ、ベース部 1 の凹部 7 と、本体 2 の凸部 8 とが接触している部分を支点として回転しようとする。そうすると帯状の面ファスナー 3 はそのループ形状が伸びるように変形し、伸びきったところで停止する。図 3 はこのときの状態を示している。

さらに、この状態からセンサー本体を下方に引っ張ると面ファスナーははずれ、本体 2 はベース部 1 と完全に分離される。